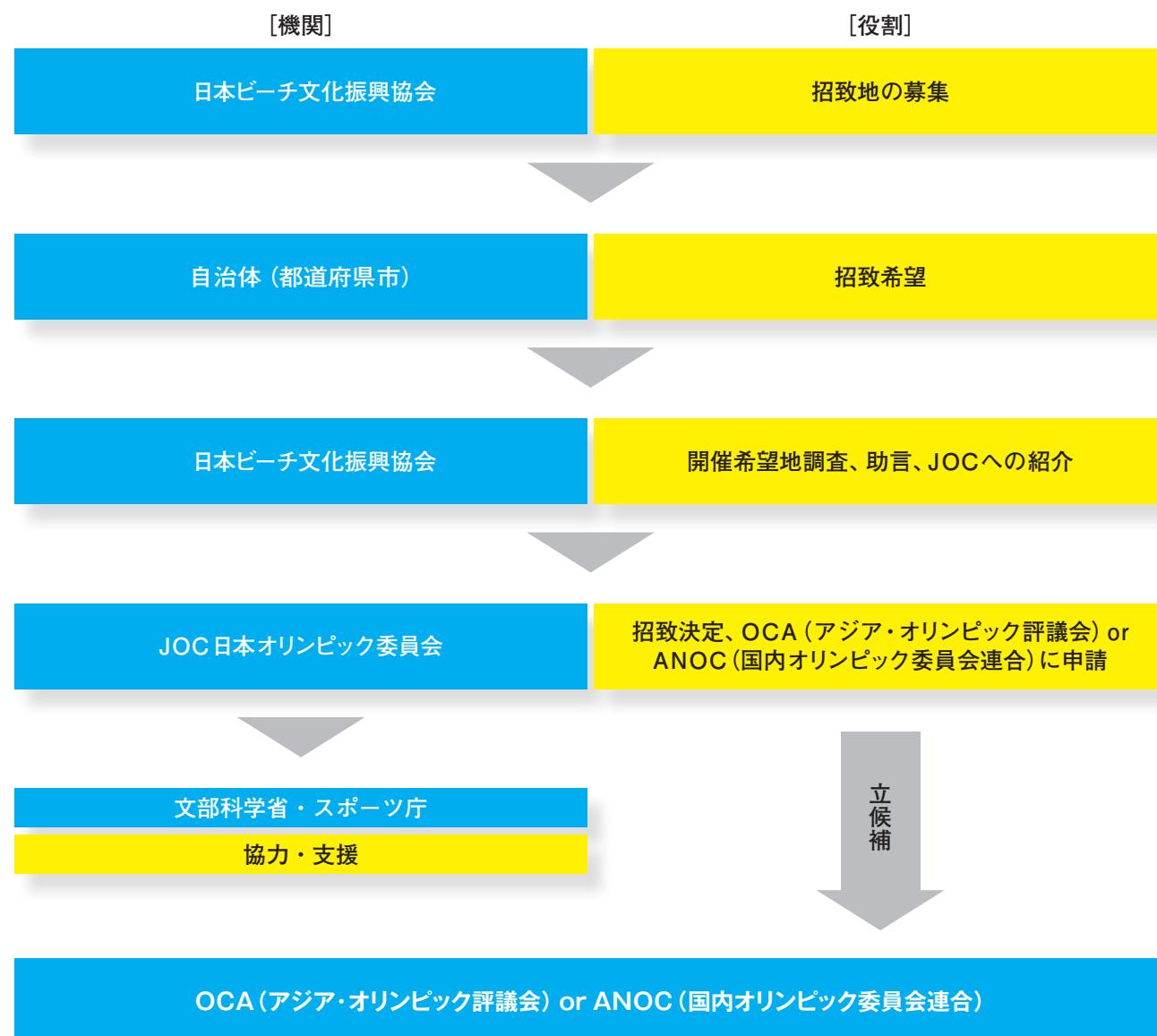


スポーツが必要とされている今 島国日本でのビーチゲームズ開催の気運が高まっています

20 15年10月に設立された「スポーツ庁」は、スポーツ実施人口を増やし、国民の健康を増進することを重点目標としています。現在国家予算の4割にあたる40兆円に達した医療費を軽減するためにも、スポーツ・フォー・オール社会の構築は重要で、スポーツする場所が不足している日本におけるビーチの活用と、ビーチスポーツの普及は大いに期待されています。また、人口が減少し、税収が減少していく地域にとってスポーツイベントを招致することは有効な地方創生の一策です。

招致プロセスの流れ



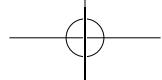
NPO法人日本ビーチ文化振興協会 (2016年発行)

〒104-0033 東京都中央区新川1-1-7 リバーサイド茅場町3階

お問い合わせ先 TEL: 03-3552-1171 E-mail: info@jbeach.jp URL: http://www.jbeach.jp

発足の目的: 一年を通じて人々が集い、ふれあい、楽しめる「海辺の広場」の創造を理念とし、日本古来の地域特性を活かした海辺利用に精通した人材による海辺活用方法(ビーチライフコーディネート)の提唱、啓発を行っています。





はじめに

日本のビーチ活用の定番といえば海水浴というイメージが強い中、NPO法人日本ビーチ文化振興協会では、2003年から海辺の通年活用を目的にビーチの多目的利用啓発活動を行ってまいりました。最初に取り組んだのは、ビーチスポーツやレクリエーションを中心としたビーチライフ*を推進するイベントの開催でした。この11年間、全国各地の自治体と協力して活動してきたことで、ビーチライフが国内でも徐々に定着してきた感触を得ています。

しかし世界では、日本よりも海辺の活用法がずっと進んでいます。2008年からはビーチスポーツ、マリンスポーツの国際総合大会『アジアビーチゲームズ』(アジア・オリンピック評議会(OCA)主催)が2年に一度開催されていますし、2017年には『第1回ワールドビーチゲームズ』(国内オリンピック委員会連合(ANOC)主催)が予定され、積極的なビーチ資源活用が行われています。

そこで日本でも世界規模の大会を招致することが、日本の海辺を元気にし海辺の価値を向上できる、ビーチスポーツ、ウォータースポーツ、ハイブリッドスポーツ競技団体との横のつながりを強固することで各競技を発展させる、まさに普及と強化を含め多面的で一石二鳥にもなることが期待できます。

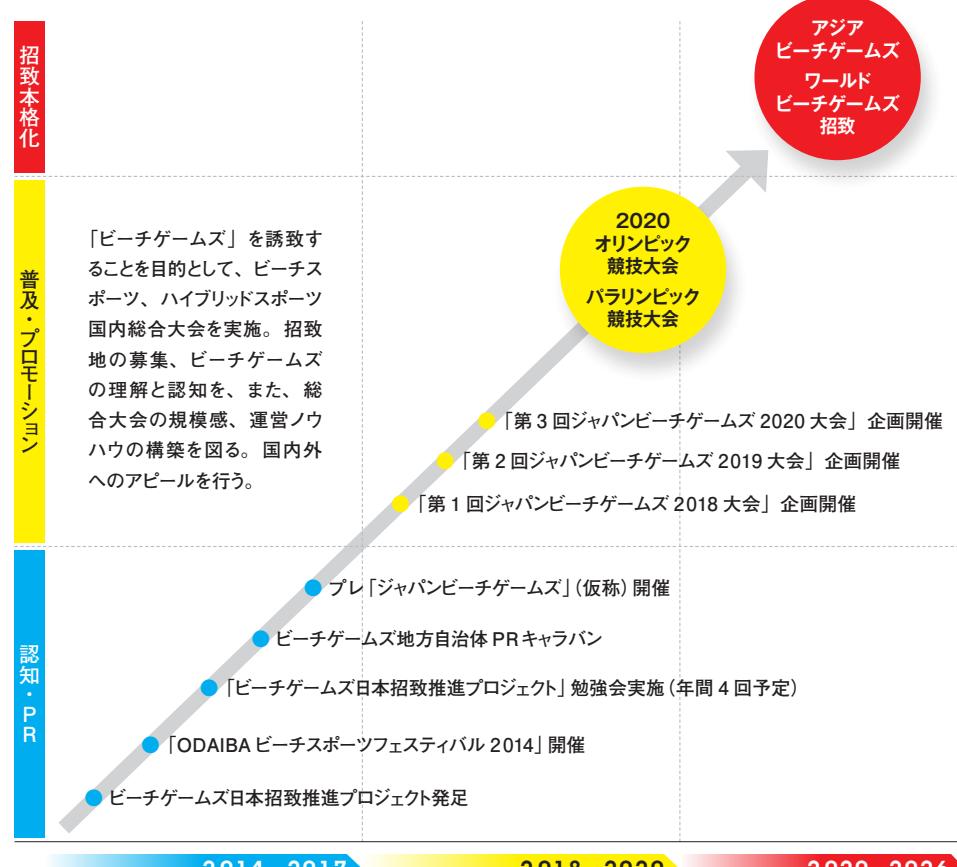
ビーチスポーツ、ウォータースポーツ、ハイブリッドスポーツを盛り上げようと熱意ある競技団体との強いネットワークを通じて、ビーチゲームズという世界規模の大会の存在、その意義を周知していきます。

*ビーチライフ……春夏秋冬、スポーツや散歩、健康づくりに海水浴、そして読書をしたり寝たり…、そんな日常的なビーチでの過ごし方を私たちは「ビーチライフ」と呼んでいます。



「ビーチゲームズ」日本招致ロードマップ

ビーチスポーツという競技を国内において発信する"チャンス"ととらえ、全国の自治体・公共組合・経済同友会・地域住民に発信します。



【これまでの活動】

2014

ビーチゲームズ日本招致推進プロジェクト発足。ナビゲーターは、朝日健太郎 & 浅尾美和(元ビーチバレー選手)。「ビーチライフ in お台場」から名称変更し「ODAIBA Beach Sports Festival 2014」(東京都港区お台場海浜公園おだいばビーチ) (競技数8種)として啓発活動スタート

2015

5月「ODAIBA Beach Sports Festival 2015」開催(競技数13種)
7月「ビーチスポーツフェスティバル in 京丹後」(競技数5種)
11月「第4回アジアビーチゲームズ PHUKET 2014 Fourth Asian Beach Games」(タイ・プーケット島)を視察

2016

「ビーチゲームズ日本招致推進プロジェクト」勉強会スタート(年4回開催予定)(座長:朝日健太郎、副座長:師岡文男)
5月「ODAIBA Beach Sports Festival 2016」開催(競技数9種)
7月「ビーチスポーツフェスティバル in 京丹後」開催予定
9月「第5回アジアビーチゲームズ NHA TRANG 2016 Forth Asian Beach Games」(ベトナム・ダナン)視察予定

【今後の予定】

日本でのビーチスポーツ・ハイブリッドスポーツ国内総合大会「ジャパンビーチゲームズ」を恒的に開催
ビーチスポーツ・ハイブリッドスポーツ競技団体とのネットワークを強固する
「ジャパンビーチゲームズ」(仮称)の法人化

What's BEACH GAMES?

海や砂浜を舞台にしたスポーツの総合世界大会。「アジアビーチゲームズ」は2年に一度、アジア・オリンピック評議会(OCA)主催で、2008年から開催されています。元々、4年に一度開催されている「アジア競技大会」の競技数が増えて規模が大きくなってきたことから、ビーチ・マリン・ウォーター系の競技を分離して開催することとなりました。アジアの枠を越えて初めて開催される「第1回ワールドビーチゲームズ」(国内オリンピック委員会連合(ANOC)主催)は、2019年にアメリカ・カリフォルニア州サンディエゴでの開催が予定されています。



【アジアビーチゲームズの歴史】

2008年 第1回大会 インドネシア・バリ(19競技)
2010年 第2回大会 オマーン・マスカット(14競技52種目)
2012年 第3回大会 中華人民共和国・海陽(13競技49種目)
2014年 第4回大会 タイ・プーケット(23競技165種目)
2016年 第5回大会 ベトナム・ダナン(14競技21種目)
2018年 第6回大会 インド・ゴア(予定)

【第1回ワールドビーチゲームズ概要】

主催は、国内オリンピック委員会連合(ANOC)。200以上の国から5000人以上の選手・役員の参加、開会式および閉会式では約4万人、1日約10万人の観客を見込んでいる。ビーチスポーツ13競技、ハイブリッドスポーツ1競技、ウォータースポーツ6競技と全19競技を開催予定。

Beach Sports (ビーチスポーツ) 13競技

バスケットボール(3x3)
ビーチ陸上(60m走、4x60mリレー、マラソン、走り幅跳、砲丸投)
ビーチバドミントン/ビーチハンドボール/ビーチテニス
ビーチバレー/ビーチレスリング/BMX/Eースポーツ
フライングディスク(ビーチアルティメット)/空手
ローラースポーツ(スケートボード)/スポーツクライミング

Hybrid Sports (ハイブリッドスポーツ) 1競技

トライアスロン

Water Sports (ウォータースポーツ) 6競技

パワーボート(ジェットスキー)/セーリング(ボードセーリング)
サーフィン(スタンダップ・パドルレース、サーフィン)
水泳(マラソン水泳、水球)/水上スキー・ウェイクボード(ウェイクボード)